

エタノール摂取中の消化管での 血清蛋白漏出

Gastrointestinal Plasma Protein
Loss During Ethanol Ingestion:
A.R. Chowdhury, L.S. Malmud,
V.P. Dinoso, Jr. (*Gastroenterology*
72: 37~40, 1977)

エタノールが胃粘膜へ及ぼす不利
な影響はいろいろと研究されてい
る。急性びらん性胃炎はその1つで
ある。著者らは、慢性萎縮性胃炎で
は正常者または慢性表層性胃炎に比
べて、エタノール摂取中に便中に
Cr⁵¹をラベルした赤血球を多く認め
たことを既に報告した。今回はエタ
ノール摂取中に人の正常胃粘膜で同
様なことがおこるかどうかを調べ
た。まず血漿蛋白の便中への排出を
調べると、対照では、正常、表層性
胃炎、萎縮性胃炎の三者ともきわめ

て軽微で差はなかった。ところがエ
タノール摂取後で、三者とも排出が
多くなった。表層性胃炎では著増を
示し、萎縮性胃炎では更に高く、対
照時の2倍値を示したが、正常では
増加を示したものの有意ではなか
った。胃での血漿漏出はエタノール
摂取後増加した。萎縮性胃炎では、
正常、表層性胃炎に比べて高値を示
した。

200 ml の40%エタノール摂取後
におこる血漿アルブミンの便中排出
増加は、胃がその場所であることを
示唆している。萎縮性胃炎では、正
常や表層性胃炎に比べてエタノール
摂取後に排出高値を示したことは、
先に著者らが萎縮性胃炎で便中に赤
血球排出が他に比べて大であったこ
とを報告したことと一致している。

Glass らは、慢性萎縮性胃炎患者
の胃液が正常や表層性胃炎の場合よ

りも多量のアルブミンを含んでいる
のを報告した。萎縮性粘膜での電解
質やアルブミンの透過性の亢進は、
細胞剥離の増強とともに粘膜にびら
んをつくりやすくする。そして胃内
への血漿や赤血球の脱出を増大させ
る。内視鏡的にも、40%のエタノール
摂取後、萎縮性胃炎では正常や表
層性胃炎に比べより高い頻度で粘膜
びらんを認めた。ラットの実験で、
エタノールを胃内に注入後、小腸に
出血性びらんを認めたことは、ここ
から血漿が失われるかもしれないこ
とを示している。慢性のアルコール
常飲者では、同じ年齢層の対照群に
比べて、慢性萎縮性および表層性胃
炎の頻度は高く、これはエタノール
摂取により便中への血漿蛋白排出の
増加を示し、萎縮性胃炎での臨床的
意義は大である。

(愛知県がんセンター 小林世美抄)